

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292300045		
法人名	株式会社ひらいし		
事業所名	グループホームひだまりの家 さくら棟		
所在地	長崎県西海市大島町5787		
自己評価作成日	令和5年12月4日	外部評価結果確定日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4292300045-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和6年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた心地よい環境で利用者一人ひとりのできることを続けながら、心穏やかな生活が送れるように支援に努める。また、基本理念に「共助」というものがあり、利用者さんと共に助け合いながら、楽しく、安心して過ごせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「尊厳」という軸に基づいて利用者が抱くであろう感情を職員が想定し支援をおこない、プライバシーを考えた言動からいんなケアに反映されていて、出来る事を奪わない、利用者の思いに沿った支援を実践している。運営推進会議は、これまで書面にての会議を8月から対面にて行うようにした。これまでの報告型の会議内容から、資料の中の認知症の関連資料が細やかな資料となっており、参加されている方にとっても関連する情報を取得する機会となっている。看取りは行っていない事と、要介護3になった時点で、次のステップの施設をどうするかを考える方針がしっかりしている点と、利用者にとってより良いサービスへ引き継ぐ事の大切さを発信している点が明確でご家族にとっても分かりやすい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に理念を掲げ実践出来るように心掛けているが、実践出来ていない時は管理者及びその場にいるスタッフが理念に沿った言動をする様に伝えあっている	法人設立当初から施設運営の理念として、「尊厳・ふれあい・共助」を掲げ内容については、重要事項説明書にひだまりの家が目指す方向性を示しており、職員にも重要事項説明書を使って周知すると共に、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により交流出来ていない	コロナ前には鬼火焚きなど地域の催しの連絡があっていたがコロナ禍では催しの連絡が途絶えている。唯一繋がりとしては地域消防団との連携は維持しており、利用者の不意な外出時に、地区の区長を通じて利用者を捜す等対応をお願いしている。今後コロナの終息を願いつつ、饅頭を地域の方々と再度作りたいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により出来ていない	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により書類を送付するやり取りを行っていたが、令和5年8月よりホームでの運営推進会議を開催し始めた	新型コロナが5類に移行後、運営推進会議は対面で行うようになった。運営推進会議の前にアンケート調査を行い回答には民生委員、当地区の区長、家族代表などからご意見を頂いている。認知症研修会報告では、研修で使用した資料も添付されていて、内容が良く理解できるようになっていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは不明な所があれば連絡している	決まった市町村担当者がいて常にやり取りを行っており、最近では、生活保護者の対応についてや介護保険の請求に関して指導を受けた。他にも研修参加の知らせ等がある。地域包括支援センターからは、独居老人が増えた事により待機者の入居の件で問い合わせが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度テーマを決め社内研修を実施し全職員が周知・理解出来ている。しかし、言葉がけが身体拘束に値する言葉を使っている時はその場にいるスタッフが「今〇〇って言った」と伝え気づいてもらうようにしている	身体拘束適正化委員会は2ヶ月に1度開催しており、身体拘束に関する事例はない。転倒防止の為にセンサー使用は虐待には当たらないとしているが、使用する場合、ご家族に承諾書を3か月に1度頂き確認している。研修では、認知症の理解、身体拘束、虐待・身体拘束になる記録の取り方を行い、常に身体拘束をしないケアの実践について理解し共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で勉強する機会もある。職員間で注意しやすい関係性を作り、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がない為活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を私読んでもらい後日代表や管理者がご家族と契約書等を読み合わせ説明を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡し意見を求め反映させている	入居契約時、ひだまりの家を説明するときここは終の棲家ではない事を明確に説明している。要介護3になった時点で次のステップの施設を考えて貰い、利用者にとってより良いサービスへ引き継ぐ大切さを説明しご家族に理解していただいた上で、必要な手続き等のサポートをしている。ご家族から特段の意見は無いものの、面会制限が緩和されたことにより、利用者の状況を見て頂き介護計画の作成に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は日々の業務で申し送り等であがってくる。代表も申し送りに参加している為、職員の意見を反映できるよう務めている	職員と管理者との面談については、日時を決めて行わず通常業務の中で職員へ声掛けを行い指導している。月に1度のスタッフ会議には管理者、職員、ケアマネージャー、法人代表が参加して開催している。職員からの意見の拾い上げについては、具体的な事柄に落とし込んで聞くようにしている。業務の申し送りについては、日々の様子を伝えその後改善点にも意見が上がっている。具体例として、ソファの位置の変更や食器洗浄機の購入に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職場環境等負担軽減に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為の講習を受けさせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により出来ていないが、代表が同業者と交流し得た情報を職員に教えてくれている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れるまで寄り添い話し安心して生活できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者がこまめに状態等の報告を行い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表がグループホームでの利点や欠点を説明している。場合によっては他のサービスを提案することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を見極め、家事などの作業やもの作り等をスタッフと共に行い「ありがとう」と何度も伝え、信頼関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で家族と本人のつながりが保ちにくくなっているが、定期連絡の際に本人と電話で会話してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響でなじみの人や場所との関係が途切れてしまっている	家族同伴の外出については、マスク着用の上、診療所等の受診について、食事を伴わない事を条件に許可している。散髪に関しては外部から来所してもらい海棟、さくら棟交互に行っている。コロナ禍においても感染対策を行い、利用者の自宅付近や崎戸地区へドライブして気分転換を図っている。今後は感染対策をしっかりしながら以前買い物に行った所にも連れて行きたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からレクリエーション・作業などの時スタッフが利用者に話題をふり利用者同士の会話が成功するように接している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても利用者の経過をご家族から伺い相談や支援出来る関係性が出ていと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話を通じて意向の把握に努めている	利用者の思いや意向の把握については、入居前の面談時に本人やご家族から情報収集して生活に反映できるように努めている。また、入居後は主にケアプランの見直しの際に意向の確認を定期的実施している。ひだまりの家では意向の把握をする際に工夫している点として、生活のパターンをよく観察すること、動作や仕草を見て予測する、予想するプロセスを経て、ケアプラン等に支援内容を落とし込んでいる。意向の把握が困難な場合には言葉だけではなく紙に書いて説明をしたり、ジェスチャーで意思伝達する等、その利用者によって様々な角度からアプローチしているとのことであった。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努め、出来るだけ家庭環境に近づけたりなじみの私物を使用して頂くなど配慮している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや日々の観察にて現状の把握し情報共有に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議の中で情報を共有し本人の状態に合わせた無理のない必要な介護計画を作成している	介護計画書の目標は利用者の意向であることを原則としてプランニングしているため、利用者の情報収集と情報の共有を重要視している。情報収集については朝の朝礼時や日常の業務中、月に1回開催しているスタッフ会議等でそれぞれ情報を集めた上で、3ヶ月に1回のモニタリングを経て最終的に計画書の見直しを行っている。また、共有については「ひだまりレポート」という連絡帳のようなノートに気づきや支援についての留意点・変更点を記している。他職種共同で利用者のプランニングするという観点から、医師等医療職からの情報も着眼して、医学的ケアやリハビリ面の支援内容を計画書に反映することもあるとのことであった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や毎日の申し送りなどで情報を共有し実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じた対応をしている。家族と会えないので電話での状況説明後に本人に代わり電話で話す機会などを設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気がいい日にはたまに散歩に出かけ景色などを体感し楽しませている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や往診等で適切な医療が受けられている	かかりつけ医の選定については基本的に入居前の医療機関をそのままに継続できるが、急変した際や夜間の体調不良時の対応を説明すると、ひだまりの家の協力医療機関を選択することがほとんどのことであった。提携している医療機関は体調不良時等に、昼夜を問わず電話をして良いようになっていて、利用者もご家族も職員も安心して生活できる環境設定ができています。また、眼科や皮膚科等の専門医は基本的にご家族に対応してもらっている。認知症の専門医については、生活場面の説明もあるため職員が対応することがほとんどのことであった。その他、かかりつけの薬局も設定しており、薬の飲み合わせ等で助言をもらえるため、利用者支援において大変有効的とのことであった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいない為、管理者が主治医に連絡し相談指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に代表が病院関係者と情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。定期的に家族に現状報告を行い、要介護3になった段階や特養レベルになった時に次のステップの施設への移行の説明を今一度行っている	現在のところ、ひだまりの家では看取り支援を行っていない。また重度化した場合の対応についても、要介護3レベルを目安として次のステージについての説明を行うようにしている。この説明はまず入居時の契約の際に実施している。その後は要介護認定や介護計画書の更新、見直しの時期に随時行っている。ひだまりの家では次のステージに進むことを「卒業」と捉えていて、利用者にとって最期までひだまりの家で支援を受けることが、設備等の観点から必ずしも利用者にとって有益ではないとの考えがあり、分岐点に差し掛かった利用者やご家族へは特に詳しく説明を行っているとのことであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方はファイリングしていつでも見れるようにしているが、訓練はしていない為十分ではない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回実施している	災害対策については火災発生及び自然災害共に、計画に基づく定期的な訓練の実施を紙面にて確認した。また、訓練実施後に開催された運営推進会議の議事録の議題にも結果報告が挙がっていた。地域との連携については、ひだまりの家が所在する地域に区域の自主防災組織があるため、この組織と連携しながら協力体制を構築している。消防設備の点検は点検報告書にて確認して、防災素材の使用確認は事業所の見学の際に視認した。	災害発生に備えた備蓄品一式を拝見したが、衛生用品等の備蓄は申し分のない程度の保管状況を確認した。今後、食料品や水等に関しては、利用者と職員の数を想定した量の備蓄を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つける事が無い様スタッフは言葉や態度に気を付けているが、他の利用者の前で大きな声で排泄確認をし十分ではない	ひだまりの家において一人ひとりの尊重やプライバシーの確保について、一番意識して実践していることは、職員の言動で利用者が抱くであろう感情を想像しながら支援に当たっている点である。自分がされたら嫌なことはしないという明快なことを徹底していく方針であった。職員は自分たちで「今の言葉掛けはどうだろうか？」とお互い確認する姿もあるとのことで、自分たちで軌道修正する風土が醸成されつつある。また、会社代表が朝のミーティングの際に気づいたことを客観的に職員に伝えてくれるので、この機会も人権を尊重した支援を考えるきっかけとなっている。現場レベルでのプライバシーの配慮について、基本的なことではあるが、入浴時は施錠することを基本にしていることや、排せつ誘導時は声に出して誘導するのではなく、利用者にジェスチャーで示したり、一部例外的な対応もあるが、基本的にドアを閉めてトイレの外から声掛け等を行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々に応じて自己決定して頂けるように努めているが十分ではない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ本人のペースを待つ事ができないときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で困難な方はお手伝いしその人らしく居られるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等をして頂いたり、食事形態に配慮している。誕生日には本人の希望する食事を提供している	新型コロナウイルス流行前は、ひだまりの家の敷地内でご家族にも声かけしてバーベキューをしたり、板前さんをお呼びしてお寿司を握ってもらったり、通常と異なる食事を提供して好評であったとのことである。現在、多くの人が一同に会して食事を摂ることは、感染拡大の観点から見合わせている状況であった。代わりにできる限り食事を楽しむ環境を作ろうということで、食事を1プレートの食器にて提供して雰囲気を変える等工夫を重ねている。その他、食事の準備や後片付け、関連する活動については、利用者本人の希望や意向に沿って無理のない範囲で職員と共に、また見守りのもと実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体重・体調を考慮し摂取できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に全員歯磨きを実施している。必要な時は仕上げ磨きを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンで誘導し排泄失敗を軽減するように心がけている	排せつの自立支援を行う上で一番重要している点はパターンを早めに把握した上で対策を講じている点であった。また利用者が失禁する原因を分析することで、適切な対策を講じることができるように工夫している。今回のヒアリングの際に放尿する利用者の事例を丁寧に聞かせてもらったが、トイレを認識できないことや、穴があればトイレと思いきむ等、日々の関わりの中で気づいたことや試したことを情報収集して、対策を講じる姿勢がとても熱意が伝わり、利用者にも真摯に向き合っている姿勢が鮮明に感じられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日確認し便秘にいい飲食物を提供したり、歩行運動等の言葉がけを行い便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏場は皮膚疾患が多くなる季節なので3日1回の入浴。冬場は週2回入浴して頂いている。入浴時間はスタッフ側で決めている現状	入浴に関しては基本的に1週間に入浴する回数や時間帯を決めているが、利用者の状態や気分、ひだまりの家の行事等で変更になることもあり、その時は柔軟に対応しているとのことであった。特に利用者の体調が悪く、午前中しか入浴できないケースもあるとのことであった。また入浴における嗜好という観点から、熱いお湯が好きな利用者、温めがいい利用者、一番に入りたい利用者等々、それぞれの意向に可能な限り応えながら支援しているとのことであった。入浴に関連して衣類の準備はできる限り利用者から衣類を選んでもらって、選択する機会を生活の場面で少しでも多く持ってもらおうとする姿勢を確認した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態にあわせて休息を促し、気温の変化に応じてその都度室温の調節を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は管理者が把握しているが、変更があった際はスタッフも様子観察を強化している。服薬時は必ずスタッフが行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて興味がある事ややりがいのあることを楽しみながら出来るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以降、他者との接触に気遣い外出は控えていただいている	日常的な外出に関しては、ひだまりの家の敷地は広く風光明媚な立地であることから、敷地内の散歩や外気浴、日光浴には大変気持ちのよい環境と言える。職員はちょっとした散歩等については決まった時間にするのではなく、その日の気候を見ながら臨機応変に実施している。ユニットによっては車両を使って毎月外出するが、利用者の状態像を鑑みてのことなので、定期的にいっまでもというわけではなさそうであった。その他、洗濯物を干す際に一緒に出て外気を感じたりすることもあるり、生活の様々な場面において外気に触れる機会を創出している好事例を確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為お金は持ち込まないようにしているが、お金を所持する事で安心される利用者には家族の了承をえて少額のお金を所持して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で会話したり、はがき等を希望された際はお渡ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛けトイレ等は頻回にチェックし不快な思いをされない様気配りをしている	ひだまりの家は平屋の2ユニットを有するグループホームで、リビングから庭の草木が見えて陽当たりもよく、気持ちの良い空間であるように感じた。また屋内は汚れやごみ等は見当たらず、また、不快に感じるような匂い等もなく清潔な印象を覚えた。共用空間の中で特に気にかけていることは加湿器の洗浄であった。以前衛生的ではない状況で加湿器を使用していたとのことで定期的な確認に繋がっている、関連してエアコン等も確認しなければカビが発生したり、汚れた空気を送風することになるため、加湿器同様に気がかけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には自由に過ごしていただき作業しながらの会話を楽しまれたり、リビング・食堂など利用者が座りやすい環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛けトイレ等は頻回にチェックし不快な思いをされない様気配りをしている	ひだまりの家として居室の居心地の良さという観点において、一番重要視している点は怪我をしない、転ばない環境の設定を行うことであった。他のホームと変わらず、危険が及ぶものを除いて特に持参物に制限はなく、使い慣れたタンス等を持参している居室もあった。この居心地の良さに加えて、利用者が居室内で転倒しないような工夫点として、動線上に伝い歩きができるようベッドや床頭台を配置している。また、利用者によっては清潔な衣類とそうではない衣類を混同することがあるため、分別できるように可視化したり、それでも混同する場合もあるため職員が気がけて清潔な環境整備に努めているとのことであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの力に合わせて安全に生活できるように環境作りに努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292300045		
法人名	株式会社ひらいし		
事業所名	グループホームひだまりの家 海棟		
所在地	長崎県西海市大島町5787		
自己評価作成日	令和5年12月4日	外部評価結果確定日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyosvoCd=4292300045-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和6年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションと利用者の尊厳を守ること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(コロナ感染拡大防止)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない(コロナ感染拡大防 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ後付き合いはなくなっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ後地域貢献をする事が難しくなってあまりできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない所を確認している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などで取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時確認し、反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議のときに設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ後外部研修は減っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ後交流できていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を確認している 言葉に出来ない方には反応を見ながら支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのように生活してほしいか確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要か話し合いをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と一緒に活動している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診に行ってもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ後できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入ってトラブルにならないように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように支援してほしいか確認している また反応を見ながら適切かどうか判断している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を集めて共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察しスタッフと情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り ケース記録に記入して情報の共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ後難しい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と情報を共有し受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	していない 看護師がいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を集めて共有している 受診時に話をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていない 重症化し特養などのことは話しています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル作成 スタッフの1/3が救急対応できる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練をしている 毎日点検している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	涙もろい方には優しく声掛けをするようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	見たいテレビや食べたいものを尋ねる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望をふまえて安全に生活を送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の組み合わせを一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆を拭いてもらっている 料理の下準備を手伝ってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を把握し声掛けを行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に任せている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、トイレ誘導をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を確認し水分量の把握やレクレーション時に排泄の体操を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定ではない方が希望した場合、入浴はできないが、清拭を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更がある時は会議や申し送りのときに情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、散歩、ドライブを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブを行っている 利用者が暮らしていた家まで行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連絡を希望した時にしている 個人で携帯電話を使って連絡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要以上に物を置かない 季節の花や絵を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごせる 本人同士が良ければ制限していない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っていた物を持って来てもらう 安全を確かめて使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	掴まりやすくものを配置している		